

## 大会開催にあたって

今年度の研究大会は、東北大学川内北キャンパスに会場をお借りして開催します。午前中に行われる個人研究発表では、今年も優秀な公募論文が揃いました。本学会の目玉でもありますので、ぜひ足をお運びください。

一日目には、韓国現象学会会長のリー・ジョンウー先生による特別講演があります。続いてシンポジウムでは、野家啓一氏、森一郎氏、金光秀和氏にご提題をお願いし、仙台の地で、3.11以後の「技術の現象学」をめぐる根本的な問いを提起して頂き、技術哲学の第一人者である直江清隆氏に司会として議論を統括して頂きます。実りある議論の場となればと存じます。

二日目も、北政現象学会からの二人の派遣講演者による国際シンポジウム、そして、いずれも力のこもった、公募による三つのワークショップという充実したプログラムとなっております。多くの会員諸氏のご参加をお待ちしています。関心をお持ちの方々にも、ぜひ情報提供をお願い致します。なお、今大会総会において、次期現象学会委員の選出結果が明らかになります。選挙への積極的参加をお願いいたします。

企画実行委員長

## プログラム

11月17日(土)

9:15-12:30 **個人研究発表** (発表30分・質疑応答15分)

### 第1会場 (講義棟C2階201)

9:15 武藤 伸司 (東洋大学)

『ベルナウ草稿』における未来予持と触発

—意識流の構成における未来予持の必然性を問う—

10:05 小林 琢自 (立命館大学)

尾高朝雄の社会団体論と超越論的現象学

10:55 田鍋 良臣 (京都大学)

自然災害の現象学——ハイデッガーを手がかりに

11:45 木村 史人 (立正大学)

ハイデッガーとヨナスにおける「責任」と「責め」

### 第2会場 (講義棟C2階202)

9:15 田村 未希 (東京大学)

前期ハイデッガーの方法概念

10:05 神谷 健 (早稲田大学)

前期ハイデッガーにおける善と論理法則の拘束力の問題

10:55 酒詰 悠太 (京都大学)

ハイデッガー哲学における〈そのつど性〉が持つ意味

11:45 丸山 文隆 (東京大学)

ハイデッガーの存在一般の意味への問いの仕上げと

カント解釈

### 第3会場 (講義棟C2階205)

10:05 亀崎 健司 (関西学院大学)

マックス＝シェーラーの価値思考

——新たな形而上学の創造に向けて——

10:55 川崎 唯史 (大阪大学)

雰囲気と促し——メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』に

における「社会的なもの」の諸相

11:45 山下 通 (九州大学)

空間性の零度

——メルロ＝ポンティの「肉」概念とセザンヌ——

12:30-13:50 昼休み・第1回委員会

(川内南キャンパス文学部棟2F大会議室)

13:50-14:50 **【特別講演】(講義棟C2階200)**

「超越論的なものへと問い遡る必然性」

“The Necessity for Inquiring back to the Transcendental”

リー・ジョンウー (Lee Jonghoon) 氏 (春川教育大学校

Chuncheon National University of Education)

15:00-18:00 **【シンポジウム】(講義棟C2階200)**

「技術の現象学」

提題者：野家 啓一氏 (東北大学)

森 一郎氏 (東京女子大学)

金光 秀和氏 (金沢工業大学)

司 会：直江 清隆氏 (東北大学)

18:00— 懇親会 会場：Bee Arena

(川内サブアリーナ棟食堂 会費4,000円)

11月18日(日)

9:00-12:15 **個人研究発表** (発表30分・質疑応答15分)

### 第1会場 (講義棟C2階201)

9:00 葛谷 潤 (東京大学)

『論理学研究』における意味の独立性／非独立性について

9:50 佐藤 駿 (東北大学)

固有意義について

10:40 富山 豊 (日本学術振興会・北海道大学)

フッサール中期志向性理論におけるノエマと地平の意義について

11:30 吉川 孝 (高知県立大学)

使命感と合理性

### 第2会場 (講義棟C2階202)

9:00 信太 光郎 (無所属)

ハイデッガーにおける人間への「形」への問い

9:50 阿部 将伸 (京都大学)

日常用語としてのウーシアアの意味射程——初期ハイデッガーにおけるアリストテレス解釈——

10:40 上田 圭委子 (首都大学東京)

「生」の動き——アリストテレスの現象学的解釈におけるハイデッガーの事象的性の運動概念とその射程

11:30 陶久 明日香 (学習院大学)

ハイデッガーにおける気分論の形成とアリストテレスのパトス論

### 第3会場 (講義棟C2階205)

9:00 小原 拓磨 (東北大学)

時間から人倫へ——前期デリダにおける脱構築の行方——

9:50 田島 樹里奈 (法政大学)

デリダ「エコノミメシス」における「不可能なもの」——『判断力批判』の“ポリティックス”——

10:40 長坂 真澄 (京都大学)

ディディエ・フランクとジャック・デリダ——両者のフッサール読解をめぐる交差と亀裂から浮かび上がる問い

11:30 馬場 智一 (日本学術振興会)  
相互共存と合一

12:15-13:30 昼休み・第2回委員会  
(川内南キャンパス文学部棟 2F 大会議室)

13:30-14:00 総会 (講義棟 C 2 階 200)

14:10-15:40 【国際シンポジウム】(講義棟 C 2 階 200)

テーマ: What is Visible, What is Audible?

Possibilities of Phenomenological Analysis.

"Phenomenology and the Visibility of the Mental"

ジョエル・クルーガー (Joel Krueger) 氏

(コペンハーゲン大学主観性研究センター)

"Applied Phenomenology: The Emergence of Auditory

Verbal Hallucinations in Schizophrenia"

マドス・グラム・ヘンリケン (Mads Gram Henriksen) 氏

(コペンハーゲン大学)

司会: 石原孝二氏 (東京大学)

15:50-17:50【ワークショップ1】(講義棟 C 2 階 201)

「ミシェル・アンリ哲学と生の現象学の可能性を問う  
——アンリ没後10年を機に——」

オーガナイザ: 川瀬雅也 (佐世保工業高等専門学校)

提題者: 米虫正巳 (関西学院大学)

村松正隆 (北海道大学)

榊原達哉 (徳島文理大学)

15:50-17:50【ワークショップ2】(講義棟 C 2 階 202)

「環境問題への現象学の貢献可能性と限界」

オーガナイザ・提題者: 紀平知樹 (兵庫医療大学)

提題者: 河野哲也 (立教大学)

吉永明弘 (江戸川大学)

15:50-17:50【ワークショップ3】(講義棟 C 2 階 205)

「感じ、記述すること——身体の現象学とその方法論——」

オーガナイザ・提題者: 三村尚彦 (関西大学)

提題者: 村川治彦 (関西大学)

河合翔 (大阪大学)

【会員休憩室】講義棟 C 2 階 203

お知らせとお願い

1 会費納入 学会費 (年間 3000 円) を同封の振込用紙にて早急にご納入下さい。大会会場でも受け付けます。

2 出欠の連絡 研究大会および懇親会への参加の有無を、同封の返信用ハガキにご記入の上、10月27日(土)までに必ずお知らせください。

3 2011 年度決算報告

【歳入】

【歳出】

前年度繰越金	2,198,243	『年報』出版費	412,598
納入学会費	1,329,000	『年報』編集費	5,480
『年報』売上	52,120	『年報』送料	41,420
立命館補助金	81,000	通信費	75,720
普通預金利息	2	企画・実行費	0
計	3,660,365	事務局経費	82,445
【次年度繰越金】	2,592,738	大会開催費	16,1276
		大会講師謝礼	58,120
		国際学会年会費	3,918
		事務謝礼	150,000
		会員名簿作成費	76,650
		事務局経費	0
		計	1,067,627

第34回

# 研究大会

日時: 2012 年 11 月 17 日 (土)・18 日 (日)

会場: 東北大学 (川内北キャンパス)

主催: 日本現象学会

共催: 東北大学文学研究科

日本現象学会

事務局 〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20  
東洋大学文学部哲学第 6 研究室(60463)内  
TEL: 03-3945-4201  
FAX: 03-3945-7353  
E-mail: ml-paj@toyo.jp  
郵便振替 00980-9-109153  
HP: http://paj.jp/